第 2 回 令和 4 年 9 月台風 14 号 大淀川上流内水対策検討会
議事概要

日時 ： 令和 5 年 1 月 24 日(火) 13:30～15:00
場所 ： 宮崎県防災庁舎 4 階 45･46 号室

Ⅰ. 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
   (1)第 1 回検討会の振り返り
      ・令和4年台風第14号の気象状況等について　【資料－1】
      ・第1回検討会の指摘事項と対応について　【資料－2】
   (2)内水解析及び内水氾濫の要因について
      ・住民グループによる考察について　【資料－3】
      ・内水解析及び内水氾濫の要因について　【資料－4】
   (3)意見交換
      ・今後のスケジュール等について　【資料－5】
4. その他
      ・流域治水の施策及び事例の紹介　【資料－6】
5. 閉会

Ⅱ. 主な意見等

【※青字は、事務局からの回答等】

議事(1)第 1 回検討会の振り返り

・H17 年 9 月台風 14 号では九州の西側を台風が非常にゆっくり北上し、本州にかかっていた秋雨前線と重なったことで台風本体の前段でかなりの降雨があったと認識している。今回(R4.9)の降雨はどうであったのか？

→今回(R4.9)の台風は、高気圧を回る暖かく湿った空気の影響で前段から降雨があったことに加え台風本体の雨が降ったため、総降水量が多くなっている。
前段の降雨で地中には水分が十分に含まれており、そのような中で台風本体による非

常に激しい雨が降ったことにより低地で浸水が発生したのではないかと思っている。

議事(2)内水解析及び内水氾濫の要因について

・住民グループによる考察については、客観的に知りうる情報の中で詳しく計算されており、精度に限界はあるが、概ね合っていると思われる。

・国交省で検討された内水解析モデルは既往出水も再現されており、精度が良いと思われる。

・住民グループで計算された数字は国交省で解析された数字と大きく外れていない。

・住民グループによる考察について、論理の飛躍が無く、現実的に計算がされている。

・資料-3 の P3 の 3 段落目に記載のある「下川東 4 丁目エリアでの生活を維持したい・・」という意見は重要。行政もしっかりとした対応を取っていく必要がある。

・住民からこういった意見が出されるということは重要かと思う。丁重に扱って欲しい。

・資料-4 の P5～6:TP.138.6m を今回の最大内水位として設定することで良い。

・内水解析モデルについても既往出水を再現されたとして良い。本来の現象としては水田と住宅地の土壌の浸透性が異なることを考慮すべきであるが、R4.9 出水及び H17.9 出水で浸水状況を良く再現出来ており、今回検討に必要なパラメータが同定出来ていると思われる。

・資料-4 の P16:国による対策の樹木伐採については必要な箇所を取捨選択して実施しているということで良いか？

→そのような認識で良い。

・大岩田遊水地の効果について補足説明して欲しい。

→資料-4 の P19 のグラフは、川東第2樋管付近における対策前後の外水位の水位低減について示しているが、内水への寄与については、樋管の閉鎖時間の短縮で提示した。また、内水位の低減も見込まれるが、国による対策だけでは床上浸水の解消は出来な

いということがいえる。

・資料-4 の P21：内水氾濫の要因について、短時間降雨が大きかったというのは資料-1（気象台資料）の P9 の「H17 年台風 14 号との比較」にも示されている。

・今回（R4.9）は後期集中型の降雨であり、前段に降雨もあったため、土壌が飽和した状態の一番都合の悪い時に集中して降雨があったと言える。
このことを内水氾濫の要因の説明の中に加えるとわかりやすい。

→資料に追記する。

・H17.9 出水のピークは昼間であったが、今回（R4.9）は夕方から夜にかけてピークが来たため、水位だけでは表せない苦労が水防団にはあったと思われる。

その他　流域治水の施策及び事例の紹介

・雨を貯める、浸透させる、その上で流す。ということがポイント。

・小松川（宮崎県管理）には雨水貯留施設があり流域治水の先行的な事例。

・都城市の地質条件は大別すると大淀川の東西で異なっており、西側は霧島山系の岩盤によるが、（川東地区が存在する）東側は沖水川等が運んできた土砂が堆積している沖積台地であり、市の水道水源の井戸もある。都城市役所の南庁舎は雨水を浸透させる機能（能力）がある。また、民家でも屋根や庭に降った雨を地中にしみこませる雨水浸透施設を設置する取組も過去に行っている。

・住民グループによる考察に「雨水の蓄積速度を改善する施策はないでしょうか」という記載があった。流域治水の観点でいろいろなメニューが考えられる。公園等を活用した雨水浸透・貯留施設も考えられるのでは。事務局に都城市役所や民家の雨水浸透施設施工時の写真等を送るので整理して欲しい。次回説明したい。

・まちづくりでは、（流域治水の概念として）水を貯める機能を持ちながら、緑や環境を良くする効果も兼ね備える、という観点でグリーンインフラがある。

・例えばガーデニングが好きな家庭では（ガーデニング用として）雨樋の水をためる施設を作るなど、住民の方とモデル地区のような形でやってみてはどうか。

議事(3)意見交換

・下川東地区の対策を検討する上での目標について、今回設定出来ていない。事務局はまず目標設定について検討して頂きたい。

・ハード対策だけではなくソフト対策も必要であり、検討に時間を要するため、次回予定の３／１開催では無理ではないか。

→事務局で検討して報告する。

以上